

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2019年1月★第128号

キリバスは世界を救えるか？

理事長 長谷川 公一



Kiri-CANの若者へ
語りかける長谷川理事長

皆さま明けましておめでとうございます。平成最後の新年です。

2019年はアポロ11号の月面着陸（1969年7月20日）からちょうど50年の年です。月面着陸の成功は興味深いことに、宇宙飛行への関心を減退させ、かえって足元の地球への関心を呼び起こしました。

翌1970年4月22日、第1回

アースデイが開催され、今に続いています。1972年6月にはスウェーデンで、第1回国連人間環境会議が開かれ、胎児性水俣病が世界に大きな衝撃を与えました。『成長の限界』が世界的にベストセラーになり、第1次環境ブームが到来しました。この50年は、高度経済成長の反省の上に、人類が真摯に環境問題に取り組むようになった半世紀でもあります。

「新年にmauri（こんにちわ）」キリバス語のお正月の挨拶です。次頁のように、昨年11月11日から16日までキリバス共和国を訪問してきました。

キリバスで興味深かったことは、現地に流れる時間の重層性です。かなりの住民は昔ながらのパンダナスの葉っぱで葺いた小屋のような家に住み、ハンモックでの昼寝を楽しんでいます。隣近所の助け合い、物々交換も

生きています。200年前・100年前と変わらないような、周囲の海と一体となった生活があります。他方で海岸で目立つのはプラスチックごみや家電ごみです。スマホもタブレット型端末も使われています。消費文明の荒波がサンゴ礁の島にも押し寄せています。明治維新から現在までの150年間の日本の姿が凝縮して、島のここかしこに同時に点在し・併存しているかのようです。しかも次頁に記したような気候変動問題の顕在化があります。この島でいつまで安全安心に暮らせるのか。キリバスは30年後・50年後の日本を、地球の未来を、先取りしているとも言えるのです。

現地の若者たちとの交流を締めくくる際に、私が“Make the Earth great again!（地球を再び偉大にしよう!）、Make small islands great opportunity to survive!（小さな島々に存続の機会を!）”（キリキャン）と言うと、Kiri-CANのペレニセ事務局長は、“Make Kiribati great for the whole world!”と返してくれました。「地球全体のためにキリバスを救おう!」という素敵な言葉です。「フクシマは世界を救えるか?」という鋭い問いかけがあるように、「キリバスは世界を救えるか?」という喫緊の問いに私たちは直面しています。キリバスが直面する問題から私たちは何を学ぶのか。私たちの学習能力が問われているのです。

いつも足元と地球全体を結び付けて、考え行動する一年にいたしましょう。

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとらして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体が作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 新年のご挨拶「キリバスは世界を救えるか?」
- P2 キリバスは地球の未来の縮図——Kiri-CANとの協定書締結を終えて
- P3 親子で森林について学びクラフト作りを楽しみました! / 仙臺農塾 Vol.7 大人の食育プロジェクト
- P4 ワケルくんバスで行く! 環境施設見学会「ごみのゆくえを見てみよう!」 / かんきょう見聞記「生活のリデザイン」
- P5 協同組合からのお知らせ / 目指せ100人! 環境リレートーク 柳沼真理さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 ストップ温暖化センターみやぎ通信 / 栗原市水の神さま調査
- P8 トピックス/イベント一覧/編集後記

キリバスは地球の未来の縮図—Kiri-CANとの協定書締結を終えて

理事長 長谷川 公一

<主な旅程>

- 11月12日 非政府組織キリバス気候アクションネットワーク (Kiri-CAN) 表敬
- 11月13日 海洋訓練学校表敬・視察
南太平洋大学キリバスキャンパス表敬
- 11月14日 北タラワ視察
キリバスの若者達とパネルディスカッション
- 11月15日 マングローブ記念植樹・協定締結式



交流協定書を締結

11月11日から16日までキリバス共和国を訪問し、気候変動問題に取り組む現地の環境団体Kiri-CANとMELONとの今後3年間の交流協定書に調印してまいりました。この協定は、ヤシ殻利用

のロケットストーブの実証実験などを中心とする過去3年間のKiri-CANとの交流実績を踏まえたものです。キリバス共和国の環境NGOが海外の環境団体と交流協定を締結するのは、同国の歴史の中ではじめてのことです。海外の環境団体と交流協定を締結するのは、私たちMELONにとってもはじめてのことです。

キリバスが直面している状況をイメージするために、目の前に浅い皿を置いてみてください。くぼんだ平皿の部分がサンゴ礁の礁湖（ラグーン）、透きとおる遠浅の美しい内海です。皿の縁が、タラワなどの島です（環礁と呼ばれます）。皿の外側が外洋、太平洋です。タラワの場合、皿の縁の幅は350メートルしかありません。しかも縁の高さ

は海拔1～2メートル程度です。気候変動による海面上昇によって、最悪の場合、21世紀後半には人が住めなくなってしまうのではないかと予測されています。海面上昇に対して逃げ場がないのです。

気候変動の影響は既に顕在化しています。海岸線の侵食・後退。場所によっては80メートルほど後退し、旧道は海面下に没し、付け替え道路に替わっています。雨期の短縮、干ばつ。洪水などの高潮被害。サンゴの白化。そしてもっとも深刻なのは、井戸水の水枯れと、塩分濃度が増して飲み水が塩辛くなっていることです。

協定書では、温暖化に関する情報交換・脱化石燃料に向けた技術の共同開発・人材育成などを謳っています。「キ

リバスが直面している気候変動問題は、日本や先進国の発展・エネルギー多消費の犠牲だ」というKiri-CANの若者の意見がありました。キリバスが直面しつつある深刻な現実、決してどこか遠い国の他人事の問題ではありません。落盤事故を警告する炭鉱夫のカナリヤのように、地球全体に対する警鐘です。私たち自身の、私たちの子どもや孫達が直面する未来の縮図です。

この協定の締結にあたっては、一般社団法人日本キリバス協会のケンタロ・オノさん（仙台市生まれですが、キリバス国籍を持つキリバス人です）にご尽力いただきました。ひとかたならぬご支援と情熱に深謝申し上げます。



環境大臣と談笑



Kiri-CANの若者達とマングローブの苗を植樹



Kiri-CANの若者達と（前列左から2番目がケンタロ・オノさん）

親子で森林について学びクラフト作りを楽しみました！

「秋の森でキコリ体験会！～in 尚絅学院大学～」

日 時：10月27日（土）10：00～14：00

場 所：尚絅学院大学 大学林

参加者：45名



薪が割れた！

みやぎ里山応援団が主催する森での体験会、今年は尚絅学院大学にご協力いただき、名取市ゆりが丘のキャンパス裏にある大学林を会場に企画しました。と

ころが当日はあいにくの雨。尚絅学院大学の多目的ルームをお借りし、雨用のプログラムにより開催しました。

まずは宮城県林業振興課の勝呂元さんすぐろ はじめから宮城の森林の現状や大切さなどをクイズ形式でお話いただきました。子どもたちはクイズに一喜一憂しながら学びました。

次は、ボランティアで森林活動を行っている「エコ・森林」の皆さんによるクラフト作りです。木の枝やドングリなどを使ってフクロウやクマを作ったり、竹笛を作ったりして楽しみました。自分で作ったクラフトにみんな満足していたようです。



端材でつくったクマとフクロウ

お昼を食べた後は天気が回復したため、急きょ外に出て薪割り体験と伐倒（チェーンソーで木を切り倒す）見学を行いました。薪割りは初めて体験する人も多く、おそろおそろの体験でしたが「エコ・森林」の皆さんに指導を受け、やっと割れた時は参加者全員嬉しそうでした。

森林の大切さ、素晴らしさは現場で感じてわかることも多いと思います。次はぜひ好天のもと森の中で開催したいと思いました。

仙 臺 農 塾

大人の食育プロジェクト

第1回「こころ満たされる野菜作り

～共生し育てる有機農業～

日 時：11月7日（水）19：00～21：00

ゲスト：和田智子さん（ともちゃんの野菜畑 主）

会 場：みんなの食堂 み の わ

（仙台市青葉区二日町17-12豊仙ビル1F）

参加者：15名



周りも元気になるパワフルな和田さん

Vol.7第1回仙臺農塾が、二日町にある「みのわ」で開かれました。

今回は、11月3日から開催しているオーガニック・ウィーク・センダイと

タイアップして、色麻町の有機野菜農家である和田智子さんを講師に招きました。採りたての新鮮な野菜や卵な

どをふんだんに使った、「みのわ」の皆さんの心のこもった料理を食べながらお話を聞きました。

和田さんは、土作りから始め農薬や化学肥料を使わず、鶏糞を発酵させた肥料などで育て、その野菜の端材を、放し飼いにしている鶏に与え、循環型で無駄のない農業を30年ほど行い、80種類の野菜を栽培しているとのことです。

とれたての野菜は定期市などに持ち込み、そこで皆さんと交流するのが、また楽しみと話していました。

料理の締めは、放し飼い有精卵の卵かけご飯。「みのわ」の皆さん、そして和田さんの娘さんにもお料理等多大にご協力をいただき、とってもアットホームな会となりました。



色とりどりの野菜が豪華に盛られたサラダの大鉢。紅芯大根の色の鮮やかさに参加者も大喜び！

ワケルくんバスで行く！環境施設見学会「ごみのゆくえを見てみよう！」

日 時：10月17日（水）10：00～15：10

見学場所：株式会社泉リサイクルセンター、
新港リサイクル株式会社

参 加 者：24名

毎年、家庭のごみ減量を目的に行っているごみ処理施設見学会。今回は2か所の施設を見学しました。株式会社泉リサイクルセンターでは、事業所から集められた発砲スチロール、プラスチック製容器包装を選別、熱で溶かして「インゴット」と呼ばれるプラスチックの塊にします。このインゴットは、買い取り業者により搬出され、さまざまな工程を経て、私たちが普段使う生活用品へ再

商品化されます。

また、ビン、缶、ペットボトルも回収していますが、一番困っていることは「たばこの吸い殻」がそれらの中に入っていることです。ペットボ



泉リサイクルセンターには、魚を入れる「魚箱」が山積み。手前が魚箱を熱で溶かした「インゴット」

トルは柔らかいので、カッターなどで吸い殻を取り除けますが、ビン・缶に入っていて取り除けない場合は、埋め立て処理になるそうで、本当に残念なことです。

新港リサイクル株式会社は、各家庭から出るプラスチック製容器包装をリサイクルする施設です。1日約50t回収し、手作業で異物を取り除き、併設の工場ではパレット等へリサイクルしてい



プラスチック容器包装ではない、異物がこんなにたくさん！

ます。異物の中には包丁や鉄製のフライパン、ドライヤー、家庭用の電話機などがあり、不適物としてはじかれます。参加者の中には、バケツ、ハンガーはプラスチック製容器包装ではないことを

初めて知った方もいたようです。分別する際には、プラスチック製容器包装がよく見ることがポイントです。

ごみを出すときは、消費者が正しい分別をしないと適正にリサイクルできないことがわかりました。家庭でも、仕事先でもしっかり分別しなくてはいけないと実感した一日でした。



「生活のリデザイン」

落語篇⑪

たてかわだん し きん
立川談志「黄金の大黒」
石垣政裕（MELON 理事）

たまたま名取市で秋祭りを開催していたところを通ったので、フリーマーケットをひやかしに回ってみました。会場には着物など昔の端布を使った、手の込んだ小間物が沢山並べられていました。海外へのお土産にはとてもいいので、何点が買いました。

また先日、ある結婚のパーティで着物をドレスに仕立て直したものを着用している方も拝見しました。とてもいいものです。「リメイク」は私たちの「生活のリデザイン」と感じました。

今回は昨年亡くなった立川談志が若いときに収録された「黄金の大黒」（立川談志ひとり会落語CD全

集第6集、竹書房、2004年10月）を聞いてみましょう。

長屋の家主の息子が遊んでいたら、砂の中から黄金の大黒様を拾った。めでたいので、ご馳走を振る舞いたいと家主から長屋の人たちにも招待が来ます。ところが、羽織を着用して、挨拶をしてくれというのです。何しろ貧乏長屋、羽織なんて誰も持っていない。「羽織ってなんだ？」と言う者もいる始末。誰かが持ってきたたった1枚の怪しげな「羽織」をとっかえひっかえ着て、これも怪しげな口上を述べるというものです。

何億円も収入がある人の話とか、世知辛い事件とかが続いているからでしょうか、貧乏な庶民の近所づきあいや生活のおおらかさが心にしみる、いいお話しです。

朝日新聞に『捨てられる新品の服「年10億点」』というショッキングな見出しの記事（2018年7月3日）がありました。一部は再販されたりするのですが、焼却に回るのだそうです。巨大な消費システムの行き着く先はどこなのでしょう。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

学習会「主要農産物種子法（種子法）～種子法廃止の現状と今後の課題～」

2018年4月に廃止された主要農産物種子法（種子法）はどのような役割をもった法律だったのでしょうか。私たちの暮らしや宮城の農業へ、今後どのような影響がでてくるのでしょうか。「日本の種子（たね）を守る会」を立ち上げた元農林大臣の山田正彦さんを講師にお招きし、現状と課題をお聞きます。

日 時：3月6日（水）10：30～12：00

会 場：フォレスト仙台第1・2ホール（仙台市青葉区柏木1-2-45）

講 師：山田正彦さん（元農林水産大臣、弁護士）

参 加 費：無料

募集人数：200名（お申込みいただいたすべての方が参加できます。ご案内状は送りません。）

申込方法：名前、住所をハガキ、TEL、FAXでお申し込みください。

申込締切：2月15日（金）

託 児：あり（要事前申込み）

主 催：みやぎ生活協同組合

後 援：宮城県生活協同組合連合会

問合わせ・申込み先

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2

みやぎ生協生活文化部

TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663



目指せ100人！

環境リレートーク



第71人目の執筆者

柳沼真理さん

（シンプル&スローライフ
の会代表・杜ノ遊庭店主）

初霜の降りた早朝まだくらい5時にフクロウの鳴き声で目を覚ました。主人が「ネズミかヘビでも狙っているのかも」と言ったところに、近頃頻繁に現れるネコが登場しました。「もしかしたらこの子を狙っていたのかもしれないな」と憶測は膨らみます。

「杜ノ遊庭」は仙台市の北の外れ、泉ヶ岳の裾野から連たんする丘陵地に広がる里山にあります。今から11年前、暮らしを変えたいと移り住みました。先人の残してくれた居久根^{いぐね}※に囲まれた環境は四季折々の恵みをもたらしてくれます。梅干し作り・たくわん漬け・干し柿・野草料理・野草茶など食に結びつく豊かさを、樹々での染色は自然を纏う楽しさ

を、ナタや鋸^{のこぎり}を使う山仕事は自然に向かう緊張感と醍醐味を、その木を火にくべ暖まると心も身体も解けるようです。これらは自分が体験して初めて知ることでした。

そのため、学校や保育所を中心とするNPOの活動は今年で15年になりますが、今は遊庭の森を活かした、心と身体を育む里山の活動、自然を手本とした命を育む食の活動に少しずつシフトしています。そんな自分の暮らしの中にカフェ「杜ノ遊庭」の菜食健康な食のスタイル、働き方のスタイルがあり、場のスタイルがあります。どうぞどなた様もお気軽に遊びにいらしてください。

※居久根^{いぐね}：敷地を取り囲むように植えられた屋敷林のこと

… 次号執筆者紹介 …

早川昌子さん

（NPO法人環境エネルギー技術研究所事務局
地球温暖化防止コミュニケーター）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.83

サマーリング?ウィンターリング?

「森で学ぶ親子環境学習会」

日 程：10月27日（土）

場 所：名取市相互台公民館

講 師：ショーン・ローラーさん(カナダウッド日本代表)

参加者：20名

美しい紅葉の相互台公民館の森を散策しながらの講座でした。木や森林が地球で果たす役割をショーンさんが説明し、さらに英語では「紅葉は英語では?」「樹皮はなんて言うの?」など、その場での質問を講師がすぐに答えてくれる贅沢なものでした。

木の年輪（annual rings）について、色の薄い部分は



美しく紅葉した木々の中で行われた講座

春から夏にかけて成長したところ（サマーリング）で、濃い部分は冬のこと（ウィンターリング）です。また、若い時は成長が早く、年輪の幅が太いそうで、成長に伴い遅くなるという説明に、思わず参加者から「人間と同じだ!」とコメントが出ました。

紅葉したもみじの木の下でメイプルシロップの採取方法の説明がありました。ショーンさんのジェスチャーのお陰でイメージが掴めたようです。ショーンさんのお兄さんがメイプルシロップで作った氷をウイスキーに入れる話はカナダの厳しい冬の中での生活振りが伺えました。親子を想定した学習会でしたが、美しく紅葉した森の中での学習会は子どもだけでなく大人も楽しめる内容となり誰もが満足の講座でした。



昼と夜の木の様子

あいさつの「さ」は?

第2回平成30年度新規宮城県地球温暖化防止活動推進員研修
「推進員のためのコミュニケーション ワークショップ」

日 程：11月10日（土）

場 所：フォレスト仙台4階 4A会議室

講 師：阿部育子さん（ストップ温暖化センターみやぎ
副運営委員長、コミュニケーショントレーナー）

参加者：18名



講義姿が美しい阿部さん

楽しい雰囲気の中、講師の阿部さんによる「推進員」としてのコミュニケーション力を学ぶ研修を実施しました。

「コミュニケーションがとれると良き協力者になります」が全てを物

語っていました。それは挨拶から始まります。では、あいさつの「あ」明るく元気に。「い」いつでもどこでも。

では「さ」は何を示すかご存知ですか? 「さ」先にです。「つ」つづける。相手に関心があることを示し続けることを学びました。また、第一印象の大切さ。なぜなら最初の印象を変えるのはとても難しいから。当たり前のことを再認識することも多かったです。

更に、コミュニケーションとは言葉だけでなく身体表現・贈り物・空間距離・服装などの非言語表現も例を出されて解説がありました。言葉によるコミュニケーションは推進員にとって最も重要なスキルの一つですが、言葉に頼り過ぎないようにとも強調されました。

最初と最後に自己紹介を行うことで、研修から成果を実感できた内容でした。



2人組でのコミュニケーションワーク

推進員だより No.28

気仙沼でエコ・フェスタ開催！

「エコ・フェスタ2018」

日時：11月11日（日）9：00～15：00

会場：イオン気仙沼店正面玄関及び駐車場

内容：うちエコ診断、マイバック作り、

風呂敷活用術の紹介など

活動した推進員：川名竜太さん、菊地ひろ子さん、
千葉清幸さん

イオン気仙沼店で「エコ・フェスタ2018」が開催されました！震災前からずっと気仙沼で活動していた推進員グループ「青空エコカフェ」のブースではマイバック作りや風呂敷活用術、冬のエコ

ライフチェックを実施していました。メンバーである菊地さんと千葉さんは素敵な笑顔で来場者の方と交流していました。

震災後初となる環境イベントの開催となった今回。気仙沼の復興が進むと共に、地球温暖化防止に向けた活動が広まることに期待できるイベントとなりました！



風呂敷活用術を伝授中！

栗原市「水の神さま」調査

日程：11月23日（金）

調査先：①伊豆野堰

②杉薬師

③志波姫神社

④高田山旧配水池水神碑

水部会のメンバーで、栗原市内の水と関わりのある地を訪れ、「水の神さま」の調査をしました。最初に訪れた伊豆野堰は迫川に開鑿された堰で、伊達二代藩主の命を受けて計画され、1646年に完成しました。その後、幾度も水害に遭い、修復を繰り返し、現在も下流の水田地帯を支えています。現地の方からお話を伺い、堰の歴史と地元の方の想いをお聞きすることができました。

杉薬師は双林寺というお寺の通称で、姥杉という巨木



伊豆野堰

や薬師如来像などで有名です。このお寺には、昔周りに池があり、火事の際、その池に棲むタニシが薬師如来を火から守ったという伝説が残っています。

志波姫神社は旧志波姫町の名前の由来となった神社です。もともと築館にありましたが、江戸時代に火災により廃れ、伊豆野堰を完成させた領主の古内主膳重廣が社殿を造営し、今の地に遷座しました。伊豆野堰や川下の村の守り神として、崇拝されてきた神社でした。

最後に訪れた高田山旧配水池水神碑は、もともと配水池の敷地内にあった水神碑ですが、配水池が移転したため、その後の行方を調査しました。元配水池があった場所へ行く



高田山旧配水池水神碑

と、水神碑はその場所に残されてありました。残っていたことに安堵するとともに、今後どうなるのか、考えていく必要があると感じさせられました。

多くの水にゆかりのある地を訪れ、栗原の「水の神さま」や、水に関する歴史について知ることができ、とても充実した調査になりました。

「木を使って森を元気に！ 第4回薪ストーブ・ペレットストーブ 展示・体験フェスタ」開催！

近年、薪ストーブ・ペレットストーブの関心が高まっています。

憧れはあるけれど、実際の導入となると分からないこともあって不安…。

そんな方へ、実際にストーブのあたたかさを味わってもらいながら、薪ストーブ・ペレットストーブの基礎知識を直接専門家から聞くことができます。

また、森林保全についての情報もたくさん用意しています。宮城県の森林活動の現状を知ったり、木のあったかライフについて情報交換しませんか？ぜひ、ご参加ください！



イベント概要

- ◆日 時：2019年2月2日（土）10：00～15：00
- ◆場 所：勾当台公園 市民広場、円形広場
- ◆参加費：無料（申込不要）
- 展示・体験コーナー、あったかフードコーナー
薪ストーブ・ペレットストーブの燃焼展示、薪割体験、木エワークショップ、チェーンソーアート実演、薪窯ピザ試食、ペレットで焼いたピザ、ピタパンなどの販売



参加無料♪
出入自由



MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/23（水）	みやぎ里山応援団 例会
1/24（木）	食部会 例会
1/26（土）	「ネイティブと英語で学ぶ環境学習」開催
1/26（土）	「自然エネルギー 100%に向けて動き出した世界」共催
2/2（土）	「木を使って森を元気に！第4回薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ」開催
2/10（日）	「海洋ごみのゆくえ ～海を汚しているのはだあれ？～」開催
2/14（木）	情報センター 例会
2/24（日）	「第2回利用者の声も聞ける！電力自由化セミナー ～東北の自然エネルギーを家庭で活用しよう！～」開催
2/26（火）	MELONcafe 企画部 打合せ
2/27（水）	「仙臺農塾 Vol.7 第2回井土の湧水が育むネギ物語」開催
3/16（土）	「MELONcafe プチ講座 イチゴ大福＆桜もち作り」開催
4/24（水）	「仙臺農塾 Vol.7 第3回田尻どいちからお届け 優しい牛乳のフレッシュチーズ」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

編集後記

■海洋ごみの調査をした時、荒浜ではバーベキューをしたままのごみが放置されていました。シャンパンボトル、網やトング、発砲スチロールの取り皿がそのまま、拾いながら心が痛みました。（菅田）

■仙臺農塾Vol.7、始まりました。今期も皆さんが満足いただけるよう、努めていきます。「水の神さま」調査で栗原市まで行ってきました。川に暮らしてきた先人にあらためて尊敬の念を覚えました。（山形）

■冬は好きな季節です。晴れの日には空気が澄んで遠くの泉ヶ岳や蔵王がくっきり見えます。雪がしんと降る静かな夜にはファンタジーの世界に誘われます。四季があることに感謝している最近です。（三浦）

〈会員状況〉

601名
法人 64
任意団体 9
個人 528
2018年11月30日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になります。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON） Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <https://www.melon.or.jp/melon/>

落丁・乱丁の場合は、MELON事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送・マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。